

※とある件

嵐華がデスメラモンと契り本格的に配属された後の最初の任務は、デジタルワールドでのデジモンの捕獲であった。嵐華を含めた新人組はその作業を見学していたのだが、あまり気分がいいモノではなく、休憩時間に気を紛らわす為場所を離れた所、隊員の男が幼年期デジモンを袋に詰めてサンドバッグにしているのを目撃、流石に見かねて止めに入った所、男は逆上し使役していたグリフォモンをけしかけて嵐華を殺そうとする。あわや、といった瞬間にデスメラモンが躍り出て右ストレートでグリフォモンを一撃KO、更にあっけにと取られていた隊員の男を首根っこを掴み締め上げる。嵐華が止めた為命は助かったものの、隊員の男は恐怖と酸欠から精神が崩壊して奇声と糞便を垂れ流すだけの肉塊と化し、ついでにその際男のスレイヴ型デジヴァイスが破損しグリフォモンは逃走した。

不運な事に隊員の男は「究極体を使役し実力だけならエージェント階級にも匹敵するが人格に問題がありすぎるため下級戦闘員に留め置かれている」として有名であり、それを入隊初日で再起不能にしてしまった嵐華の名は俄かに社内に知れ渡ってしまう。この件は戦闘員達の支配...もとい統率に悪影響が出ると判断した一部の上層部は、綱紀粛正の為に貴重な究極体デジモンを結果的にロストした事を名目に嵐華の処分、その様を教育映像と称して生中継する事を決定する。

デスメラモンと引き剥がされ、目隠しをされて連行された先はあるデジモン収容所の戦闘実験用アリーナ。そこで待ち構えていたのは金行筆頭・朽業天下と彼女のパートナーであるウォーグレイモン。その口から自身のやらかしが思った以上に大事になった事、処刑は決定され最早覆らない事が語られる。嵐華は抗議しようにも、その温度を一切感じない二

人の瞳に睨まれば喉が閉まり腰が抜ける。へたり込み震えの止まらない自分の体を抱きしめながらきつく目を瞑るしか出来ない嵐華だったが、その時轟音と共に壁をブチ抜きながらデスメラモンが飛び込んで来た。

隔離され拘束されたデスメラモンだったが、嵐華の危機を察し拘束と見張りを全て叩き潰して駆けつけたのだ。不測の辞退に眉が僅かに吊り上がるも表情を崩さない天下達から嵐華を庇うように立ち塞がるデスメラモンの頼もしい背中に、嵐華も覚悟を決める。その時、突如デスメラモンは輝き出し、ボルトモンに進化したのだ。

流石にこの不条理には眼を見開く天下を他所に、嵐華はボルトモンに「滅茶苦茶にやっちゃえ！」と号令を下す。その言葉を受け取り眼を輝かせたボルトモンは、斧を振り下ろせばその真空波でアリーナの天井を切り裂き、足を踏み鳴らせば地割れを引き起こす。ウォーグレイモンは天下の安全を優先して天下を抱えて撤退、二人はその後も勢いのままに施設内で暴れ回った。

最終的にこの事件によって、収容施設一棟の完全崩壊、そこに収容していたデジモン216体(うち完全体42体、究極体9体)の脱走、バックアップが取れていなかった研究データの消失、本人の責は無いとはいえ目の前で発生した大事故を止められなかった事に責任を感じて落ち込む天下のメンタルケア等々.....発生した被害総額は3桁億円にも及んだという。

落ち着いた後また命を狙われるんじやと怯えていた嵐華であったが、その後の会社の対応は処刑の撤回及び謝罪と資料室係に転属という余りにも穏当なものであった。消そうにもボルトモンが強過ぎて下手に突っつけばどうなるかわからないし、放逐したら敵対ないし裏側の面がバラされるかもしれない...ならば良い解

決策が思いつくまでとりあえず飼いきれしにしておこうという会社側の判断である。嵐華の方も下手に逆らって拗れたら面倒だし給料自体は間違いなくいいという事で、この辞令を大人しく受け入れる事となった。